

宮日報道と読者委員会 第73回会合

国スポ意義掘り下げて

宮崎日日新聞社の報道の在り方を考える「宮日報道と読者委員会」（委員長・水永正憲延岡市キャリア教育支援センター長）の第73回会合は22日、宮崎市の宮日会館であった。宮崎の実情を豊富なデータを使って測り、課題を考える企画「ハカル×ローカル」や、「スポーツと地域活性化」をテーマに意見を交わした。（司会 編集局次長兼統合編集長・大山俊郎）

施設や人材活用促進を

スポーツと地域活性化

―来年秋に本県で開催される「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」の意義と報道に期待することは。水永委員長 半世紀に1度なく、県民が観戦に足を

運びたくなる連載企画や、おもてなしの機運を醸成する視点を取り入れてほしい。

委員長・延岡市キャリア教育支援センター長

水永 正憲さん

有馬 晋作さん

伊達 紫さん

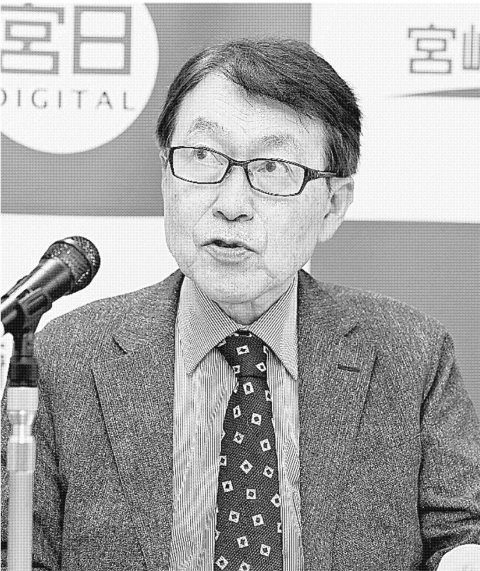
出席委員

宮崎公立大名誉教授

宮崎大理事補佐



水永正憲委員長



有馬晋作委員



スポーツと地域活性化などの報道について意見交換した「宮日報道と読者委員会」22日午後、宮崎市・宮日会館

有馬委員 「国体」から「国スポ」へ名称が変わった背景には、天皇杯獲得といった競技者中心の大会から、誰でも楽しめるスポーツ振興への転換がある。現状の報道は競技力向上に偏っている印象だ。県民全体の健康増進をいかに広げるか、本質的な意義を掘り下げる報道を望む。

伊達委員 本県の合宿実績や自主トレ環境など強みを紹介する記事があると良い。選手が応援を実感できる地域の取り組みも知りたい。また、障スポの報道に

有馬委員 整備した施設を市民のスポーツ振興にどう生かすかが重要だ。施設にとどまらず、地域開発の側面も合わせて報道してほしい。他県の事例も紹介し、レガシー（遺産）活用を促すような報道があればいい。

伊達委員 献身的に応援する「推し活」が、高齢者の生きがいや孤立防止など健康長寿に相乗効果をもたらすことは研究でも明らかだ。年齢を問わずスポーツが社会参加し、地域に一体感が生まれるきっかけになる。月刊デゲバ通信など

吉岡編集局長 スポーツが持つ多面性は、部活動の地域移行、健康増進、地域の醸成など多角的な論点を含む。国スポ・障スポを機にしっかりと伝えたい。

写真部長 黒老部 整理部長 海老原 室長 黒藤 次長 二同 報道部長 中野裕二 同 中野拓郎 同 田中博朗 同 後藤渉太 同 後藤渉太

本社側出席者

社長・見山輝朗▽編集局長兼論説委員長・吉岡智子▽編集局次長兼統合編集長・大山俊郎▽編集局次長兼編成部長・俣野秀幸▽編集局次長兼報道部長・黒木裕司▽経済部長・川路善彦▽文化部長・樋口由香▽運



伊達紫委員

データの「先」追求を

企画「ハカル×ローカル」

―3月から新企画「ハカル×ローカル」を始めた。印象は。水永委員長 デジタル時代でこそ可能な、新しい報道の形と感じた。身近なデータに引きつけてグラフィ化しており理解しやすい。一方でテーマによってはデータ過多な印象。記事で触れていながらグラフィ化されていない部分もあって、そこは分かりにくかった。

有馬委員 例えば生産年齢人口の減少が非常に大きな事。仮に県人口が60万人に

―初回は「働く人口」、2回目は「訪日客」がテーマだった。

伊達委員 中山間地域の生産年齢人口割合が40%を切っているという数字から危機感、地域の持つ課題が具体的かつ鮮明に伝わった。現地を訪れて取材している記事もあり、よりデータが生きてと思った。訪日客の延べ宿泊者数全国39位も数字で表されて驚いた。

有馬委員 訪日客の回では、福岡を中心とする周遊の流れに取り残されているという点に触れている。そこからどう工夫して対策するかが知事選、統一地方選などのテーマになる。そういう意味で今回の企画は、有意義。ポイントをコンパクトにまとめた特集などがあると問題提起になる。

有馬委員 問題提起型のテーマもいいが、番外編的にちょっと明るいテーマもいいのでは。最近話題の宮崎市の青島の現状や、県内の暮らしやすさを分析しても面白いと思う。

運動部長・清水克彦

スポーツ文化向上契機に

「日本のひなた宮崎国スポ・障スポ」開幕まで、あと1年3カ月を切った。スポーツを推進する言葉として「する・みる・支える」があるが、県の基本方針もこれに支えられている。

「宮日報道と読者委員会」では天皇杯獲得(男女総合優勝)といった競技力向上が主眼の報道が目立つとの指摘も受けた。国体から国スポに変わった意義を改めて問い直すことは必要だ。それと同時に、地元開催を誇りとし努力する選手、指導者らを後押ししたい。今回育った人材、得られたノウハウは、本県のスポーツ振興につながるレガシー（遺産）となるはずだ。そして「みる・支える」人たちの熱気も成功の鍵を握ることから、紙面でも機運醸成に努める。

スポーツと地域振興は親和性が高い。大会誘致や県民の利用促進といった施設の在り方、健康増進、福祉施策など、国スポ・障スポをきっかけにまちづくりを見据えることも重要だ。両大会がゴールではないことを意識し、スポーツ文化向上につなげたい。